

幼児用防災教育教材が保育学生の防災意識に与える影響

栗原博士

(文化学園大学保育専門学校)

はじめに

日本では、各地で地震や台風、豪雨などの自然災害が起こっている。私自身、大学時代に東京都にいながら新潟県中越地震の影響を受けた。体育の授業中に体育館が揺れ、教員の指示で安全行動を取ったことを覚えている。また、2011年の東日本大震災の時は、仕事に地震に見舞われた。どのように自分を守るのか、一緒にいる人々とどう行動するのかを無我夢中で行動していた覚えがある。

さらに、近年では災害が激甚化する傾向にある。東日本大震災について片田(2012)は、それまでの街の姿を想像させるものは何も残っていなかったと述べている。ここ10年間の長野県を考えてみても、2014年には「平成26年大雪」・「南木曾町土石流災害」・「御嶽山噴火」・「長野県神城断層地震」、2019年には「令和元年東日本台風(台風19号)」、2022年・2023年は「大雨」があり、県内でも被害が出た。このような災害は、自宅に居るときに起こるとは限らない。保育現場に居るときに起こってしまうこともある。事実、南木曾町の土石流災害、御嶽山噴火は午前中に起きている。また、昨年(2023)の能登半島地震は夕方(午後)の時間帯に起きており、これが平日であれば保護者が迎えに来ている時間帯と考えられる。

災害時の保育現場において、保育者には「自分の身を守ること」だけでなく「低年齢の子どもたちの安全確保」が求められる。さらに、時間帯によっては保護者の安全確保も重要になってくる。つまり、災害時の保育現場では子どものみならず保護者や保育者自身の命が守られなくてはならない。そのためには、防災マニュアルの作成や防災設備の整備、避難訓練の実施などの防災対策とともに、保育者の高い防災意識が不可欠である。そのように考えると、保育者志望の学生の防災意識の向上は喫緊の課題と言えるだろう。

一方、防災教育については、片田(2012)によれば、これまでは危険を取り払う教育だった。しかし、これからの防災教育は自分で考え判断することに加え、危険に対応できる姿勢を養っていく必要があると述べている。また近年、幼児を対象とした防災教育教材の開発や防災教育の実践が報告されている(例えば、高橋(2008)、小林ら(2019)、東京都教育委員会防災教育ポータルサイトなど)。年齢の低い子どもであっても自分の身を守るための知識や行動を学ぶことは非常に重要であり、将来保育者を目指す学生にとって防災教育教材の活用や防災教育に関する体験は有意義であると考えられる。

目的

本研究では、幼児向けの防災教育教材「ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん！」の活用を通して、将来保育者を目指す学生の防災意識がどのように変化するかについて、防災意識尺度（島崎・尾関，2017）を用いて明らかにすることを目的とする。

方法

授業「保育内容指導法・環境」にて、参加している学生に質問紙調査を実施した。

調査期間：（事前）2025年9月11日、（事後）2025年9月18日

調査協力者：本授業には25名の学生が参加した。事後評価時には2名が欠席したため、事前・事後比較は23名を対象とした。質問紙調査の趣旨を説明し、調査協力の同意が得られた学生に回答を求めた。

調査内容：授業内で、学生は3～4名のグループに分かれて、幼児向けの防災教育教材「ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん！」に取り組み、グループ内で意見交換したり全体で意見を共有したりする。グループワーク前後に①防災意識尺度（島崎・尾関，2017）と②防災に関する意識や防災教育の学習方法についてアンケート調査を実施し、事前・事後の変化を測定する。質問紙は、①防災意識尺度（A：被災状況の想像力、B：災害の危機感、C：他者指向性、D：災害に対する関心、E：不安、総合点）、②防災に関する意識や防災教育の学習方法についてのアンケート（防災知識、日常の防災、危険認識、教材の有用性、状況理解のしやすさ、グループワークの効果）から構成された。

倫理的配慮：調査協力者に対して、調査目的、本調査に協力しなくても不利益がないこと、個人が特定されないようにデータが処理されることを説明した上で、同意できる場合にのみ調査に回答するよう求めた。

結果

防災意識尺度

20項目を5つの下位尺度（A～E）に分類し、総合点を算出。評価は6段階（1=まったくあてはまらない～6=とてもよくあてはまる）で実施した。各下位尺度および総合点について平均値を算出した。結果は表1に示す。

対応のあるt検定を実施した結果、Aスコア、Dスコア、Eスコアおよび総合点において事前から事後にかけて有意な差が見られた（ $p < .05$ ）。一方で、BスコアおよびCスコアについては有意な差は見られなかった。

	Aスコア	Bスコア	Cスコア	Dスコア	Eスコア	総合点
事前	14.52	20.91	17.87	15.39	16.65	85.35
事後	17.43	20.65	17.91	16.57	17.22	89.78

防災に関する意識や防災教育の学習方法についてのアンケート

3項目（防災知識、日常の防災、危険認識）は事前・事後で平均値を比較した。残りの3項目（教材の有用性、理解のしやすさ、グループワークの効果）については平均値のみを評価した。評価は5段階（1=全く知らない/そう思わない～5=非常によく知っている/とてもそう思う）で実施した。結果は表2に示す。

対応のあるt検定の結果、3項目すべてにおいて有意な差が見られた（ $p<.05$ ）。

	①防災に関する知識について、どの程度知っていると思いますか？	②日常生活や保育現場での防災について意識しようと思いますか？	③保育現場で特に注意すべき危険な場所や場面について、どの程度知っていますか？	④今回の教材は、保育者を目指す学生にとって防災を学ぶ上で役立つと思いますか？	⑤今回の教材を通して、危険な状況を理解しやすいと思いますか？	⑥グループワークでこの教材に取り組むことは、学びを深める上で役立ちましたか？
事前	2.70	4.30	2.91			
事後	2.91	4.57	3.22	4.91	4.74	4.87

まとめ

本研究の目的は、幼児向けの防災教育教材を活用して、保育者を目指す学生の防災意識にどのような影響を及ぼすかを明らかにすることであった。

まず、防災意識尺度においては、Aスコア（被災状況の想像力）が大きく増加した。本教材は「まちがいさがし」という視覚教材を使用したため、学生が災害場面を具体的に想像しながら危険箇所を想像する活動を含んでいる。そのため、知識だけにとどまらず、状況を具体的にイメージしたと考えられる。また、Dスコア（災害に対する関心）やEスコア（不安）も点数が増加しており、単なる知識理解ではなく、災害を自分事として考えた可能性が示唆される。岡本・白神（2021）によれば、保育者は自然災害発生を想定した場合、「災害時の安全な避難誘導」を行うことに対して大きな不安を抱いていると述べている。本学生もワークに取り組んだ時に同じように考えたとも推察できる。また、被災状況を想像しやすくなったことにより、Eスコア（不安）が高くなった可能性が考えられる。授業内での不安を払しょくするフォローアップが乏しかったかもしれない。これを追及していく一つとして、グループワークで取り組んでもらった「ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん！」の各場面でのやり取り（写真①,②）を分析していくことが必要と考えられる。以上のことから、保育現場では迅速かつ適切な判断が求められることから、こうした意識の向上は実践的意義が大きいと思われる。

一方で、BスコアおよびCスコアには有意な変化が見られなかった。Bスコアに関しては、事前回答の時点で平均値が20点を超えていた。これは、防災意識尺度を作成した島崎・尾関（2017）によると、Bスコアの偏差値の学生平均が16～17点となっている。また、Cスコアに関しても事前回答の時点で平均値が17点。島崎・尾関（2017）の時は、学生平均12～13点。今回の授業を行う前から、災害に対する意識や人のために何かをしようと思う気持ちを持っている学生と考えても良いと思われる。そのため、事前・事後の変化があまり

見られなかったと考えられる。

防災に関する意識や防災教育の学習方法についてのアンケートにおいても、3項目（防災知識、日常の防災、危険認識）の全ての点数が増加した。さらに、教材およびグループワークに対する評価が非常に高かったことから、今回の学習方法が学生の理解を促したと考えられる。講義形式ではなく、協働的活動を取り入れた点が防災意識を高める結果となったと示唆される。

幼児用防災教材が保育者養成課程における防災教育に有効であることを示唆するものと考えられる。特に、具体的な場面をイメージすることと意識の向上という点において、実践的な教育効果があると考えられる。

文献

小林真・五十嵐望美・竹田誠・窪田博美 (2019). 幼児に対する防災教育プログラムの実践.

富山大学人間発達科学研究実践総合センター紀要 教育実践研究, 14, 75-93.

片田敏孝 (2012). 子どもたちに「生き抜く力」を - 釜石の事例に学ぶ津波防災教育 -

岡本和花・白神敬介 (2021). 就学前施設における保育者の自然災害発災に対して抱く不安の実態. 日本家政学会誌, 72(1), 13-24.

島崎敢・尾関美喜 (2017). 防災意識尺度の作成 (1) 日本心理学会第 81 回大会発表論文集, 69.

高橋多美子 (2008). 地域と連携した幼児期における地震防災教育の普及. 保育学研究, 46(2), 163-173.

東京都教育委員会 防災教育ポータルサイト

<https://www.anzenedu.metro.tokyo.lg.jp/>



写真①



写真②